

第2期復興・創生期間までの復興施策の総括に関するワーキンググループ会合（第5回）  
概要

1 日時

令和6年8月8日（木）14時30分～16時22分

2 場所

中央合同庁舎4号館共用第3会議室及びオンラインでの併催

3 出席構成員

今村座長、増田座長代理、浅野構成員及び阿部構成員

○今村座長 それでは、ほぼ定刻となりましたので、ただ今から第2期復興・創生期間までの復興施策の総括に関するワーキンググループ第5回会合を開催したいと思います。構成員の方々には、本当に御多忙の中御出席を賜りまして、大変ありがとうございます。

本日は7名のメンバーのうち4名の出席をいただいております。残念ながら、石川さん、白波瀬さん、戸塚さんが御欠席です。

また、本日は議題が5つありますけれども、議題5「福島県からの説明」では、福島県内堀知事に出席いただいておりますので、直接御説明のほどお願いしたいと思います。なお、質疑の後に御退席予定でございますので、よろしくお願いしたいと思います。本日は復興庁関係の担当に加えて、関係の省庁、また3県の担当者に傍聴していただいております。御承知いただきたいと思います。

本日の議事につきましても、これまでどおり構成員の方々のお名前を出席者として掲載しつつ、自由闊達に御議論いただくために、発言者の氏名を明記しない形で発言要旨を記載した議事の概要を公表する予定でございます。

それでは、本日の議事に入る前に、議事の進め方、また本日以降の本ワーキンググループ（以下「WG」という。）の進め方について、事務局のお考えも併せて説明をお願いしたいと思います。江原参事官、お願いいたします。

○江原参事官 ありがとうございます。事務局の江原でございます。

それでは、御説明をさせていただきます。

まず、本日の議事についてでございますが、議題1及び2につきましては復興庁から、議題3につきましては経済産業省、議題4につきましては環境省から、それぞれ資料に沿って御説明を申し上げます。その後、議題1から4の質疑、意見交換に入ります前に、福島県の内堀知事から福島県の現状、課題、取組等につきまして御説明をいただく予定となっております。知事は公務のため会議の途中で退席されますが、それまでの間のお時間で質疑等に御対応いただけるということでございますので、知事から御説明をいただいた後

は、御退席されるまでの間、知事からの御説明に関する質疑の時間とさせていただきたいと思えます。また、復興庁等からの説明に対する質疑、意見交換につきましてはその後に行う、このような流れで進めさせていただきたいと存じます。

また、本日以降のWGの進め方についてでございますが、構成員の皆様にも御了解をいただけるようであれば、次のような形で進めさせていただければと考えております。

まず、原子力災害被災地域につきましては、本日この後改めて御説明がございますけれども、避難指示の解除の時期の違いなどから地域によって大きく状況が異なること、また復興施策そのものも非常に多岐にわたることから、丁寧な議論が必要ではないかと、このように考えております。

そのため、一つには、これまで県の皆様からヒアリングもさせていただいていたところでございますけれども、WGの議論ができる限り復興の現場に即した検討の場となるように、可能な限りで被災された市町村からのヒアリングも行ってはいかかかと考えております。また、現地視察も企画させていただきますけれども、福島第一原子力発電所に隣接する地域・区域を中心に現況を御確認いただけるような形で御準備をさせていただきたいと考えております。

また、もう一つは、原子力災害被災地域に関する施策の各論まで含めた議論は、来年の夏頃までかけて丁寧に行うことができないかと考えております。具体的には、年内は地域の現状把握と分野ごとの主要施策を取り上げて御議論いただき、第2期復興・創生期間の後の施策の在り方に関する施策の各論を検討する際に必要な視点など言わば「基本的な方向性」をおまとめいただき、その後年明け以降に各論を御議論いただき最終的な取りまとめをいただくというような進め方でいかかかと考えております。このような本ワーキングの進め方につきましても、本日御議論を賜ればと考えております。

続きまして、御発言をいただく際に御留意いただきたい点について申し上げます。こちらは毎回のお願いとなりますけれども、御発言をいただく際には挙手をお願いいたします。その上で、御発言に際してはお手元のマイクの通話ボタンを押してから御発言をいただければと存じます。

なお、本日は卓上に資料1から6に加えて参考資料を御準備しております。過不足などございましたら事務局までお知らせをいただければと存じます。参考資料として一番下に縦長の資料がついておりますけれども、こちらは「福島浜通り地域等15市町村の現況マップ」というものでございまして、浪江町に整備される福島国際研究教育機構（エフレイ）を起点とした一定範囲内における基本的な生活機能を把握するために作成された資料でございまして、テーマごとの地図に各種施設の場所などが記載をされておりますので、浜通りにおける基本的な生活機能の状況、配置などにつきまして概観をしていただく際にお役に立てればということで席上に置かせていただいているものでございます。なお、資料の性質上、エフレイから離れるにつれて掲載される情報が少なくなっていくことがありますけれども、その点は御留意をいただければと存じます。

私からは以上でございます。

○今村座長 ありがとうございます。

本日の議題の内容、また今後のWGの進め方について御説明をいただきました。具体的な御意見等はまたディスカッションの中でお願いしたいと思っております。それでは、本日の議事次第に沿って進めさせていただきたいと思っております。

本日は、原子力災害被災地域における復興施策の総括に向けた最初の回になります。原子力被災地域における現状や取組、これをテーマごとに議論をしていただき、議論を深めていきたいと思っております。議事次第に沿って、まずは復興庁、次に経済産業省、そして環境省から御説明をいただいた後、福島県の内堀知事から説明をいただきたいと思っております。資料については、構成員の皆様には事前にお送りしておりますけれども、改めて各省庁から丁寧な説明をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

議題1から5について、「第2期復興・創生期間までの復興施策の総括に関するワーキンググループ運営要領」第6項に基づき、議事要旨を記載。

#### 議事要旨

復興庁山野統括官から資料1、資料2及び資料3に基づき、経済産業省福島復興推進グループ宮崎審議官から資料4に基づき、福島県内堀知事から資料6に基づき、環境省環境再生・資源循環局白石局長から資料5に基づきそれぞれ説明がなされた（議事進行の都合上、福島県と環境省の説明順が変更となった。）。構成員からの主な意見は、次のとおり。

- ・ 原子力災害被災地域の中でも市町村ごとに随分と違いがあることがはっきりしたと思う。地域ごとの状況に違いがあることや、復興のスピードが相当大きく異なることをしっかりと踏まえてきめ細かく考え、当てはめる施策を地域ごとにきちんと判断していく必要がある。
- ・ 帰還が進んでいない地域については、被災者の帰還意向も確認しながら進めていくことが重要。何が重要かの施策のプライオリティも、WGで議論していきたい。
- ・ 最終的には福島県が立派に自立していくため、今後は地域の自立が長く続いていくよう、工夫をしていくことが必要ではないか。地域も自分たちの力で建て直していくという地元の方々の気概に応えられるように施策を工夫しながら、地域の自立を促すことが重要。
- ・ 全国でも人口減少が進んでいる中、市町村の圏域を超えた広域化の取組を政府として推進していると承知。福島県においても、教育や医療機関等の生活を支える施設につ

て、広域的に利用することがより有効になってくると思う。広域的な利用は、維持管理費も皆で少しずつ分担することで負担の軽減になるし、地域の持続可能性を確保するためにも必要。市町村にもそういったことを促していき、場合によっては市町村を調整していく場づくりも検討いただき、丁寧に議論していく必要があるのではないかな。

- WGの項目は多岐にわたるが、現状を正しく理解した上で課題を整理し、複数の項目や課題に共通する、広域連携等のテーマや多岐にわたる項目の関連性、課題に対する解決の突破口を考えることが大事。
- コミュニティ形成について、避難指示が解除されて戻ってくる人が増えるにつれ、少しずつコミュニティの再生も進んでいると聞く。今後も取り組んでいくことが重要。
- 移住と観光という点が重要であり、移住者には大変多くのチャンスがあるので、社会貢献、地域貢献といった観点からも情報発信に力を入れて、移住者の確保等に取り組んでいただきたい。
- 出口戦略、何をもって復興とするか探っていく必要。例えば、2030年には帰還・移住の構成等どのような姿を目指すのかなど、数字的なものを示すのは難しいかもしれないが、戦略的にビジョン等の議論を進めていくべき。
- 福島の復興に当たっては、実際に来て、復興の姿を見ていただく、ホープツーリズムを進めていくことが重要であり、交流人口の拡大にはぜひ力を入れていただきたい。また、福島国際研究教育機構がキーワードになってくると思うので、WGでも取り上げていただきたい。
- 今後、燃料デブリを多く取り出していくことになると、新たな風評を懸念。
- 発災から13年以上経つこともあり、風化が懸念される。WGとして風化対策をどうするか考えていきたい。新たな風評の懸念がある中、また、風化が進む中で、福島県としてどういったことを国や関係機関に求めるか。
- WGでの議論は、①確認だけで収める部分、②二者択一や三者択一で方向性を決める部分、③未来に向けて方向を考える部分で分けて進めていくべきではないか。また、現地の方々に現況を説明していただいたり、意見交換を行ったりする機会を作っていただきたい。

(以上)